

基礎看護学の構成

目的

看護の概念と役割を学び、対象の理解と看護実践の基礎的能力（知識・技術・態度）を養う

講義科目	単位	時間	時期	目 標
基礎看護学				
看護学概論	1	30	I	看護の意義と歴史的変遷を知り、看護の概念を学ぶ
看護管理概論	1	30	II	1. 看護管理とは何かを概観できる 2. 看護職に必要な管理の知識を習得する 3. 医療組織人としての基盤となる考えを形成することができる
看護研究	1	30	III	1. 看護学における看護研究の意義目的とその方法が理解できる 2. 研究的視点と論理的思考を持ち備えて看護の実践評価ができる
基礎看護技術				
基礎看護技術 I	1	30	I	1. 看護技術を看護実践の中で活用することの意味と、看護実践の基盤となる考え方について学ぶ 2. 感染防止の基礎知識を理解し、施設内で発生する院内感染を防止するための技術を習得する 3. 人間にとっての環境の意味を理解し、生活環境を整えるための知識と援助方法を習得する 4. 活動・休息の意味を理解し、基本的活動と睡眠の基礎知識と必要な援助方法を習得する 5. 苦痛の緩和や精神的安寧を目的とする看護行為について理解することができる
基礎看護技術 II	1	30	I	1. ヘルスアセスメントの意味を理解し、必要とされる技術を習得することができる 2. 生体におけるバイタルサインの意味を理解し、その測定方法について習得することができる 3. 呼吸・循環の生理学的メカニズムを理解し、呼吸・循環を整える技術を習得することができる 4. 罨法の種類と罨法が身体に及ぼす影響を理解し、温罨法・冷罨法の実践が習得できる 5. 苦痛の緩和や精神的安寧を目的とする看護行為について理解することができる

基礎看護技術 Ⅲ	1	30	Ⅱ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体各部の形態や、身体機能を正しく計測し評価することを習得することができる 2. フィジカルアセスメントの概念、フィジカルアセスメント技術とそれによって得られる客観的データについて理解することができる 3. 生体におけるバイタルサインの意味を理解し、フィジカルアセスメントに活用することができる
基礎看護技術 Ⅳ-①	1	30	Ⅰ Ⅱ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活への看護を学び、その技術を習得することができる 2. 苦痛の緩和や精神的安寧を目的とする看護行為について理解することができる
基礎看護技術 Ⅳ-②	1	30	Ⅱ	検査・治療への看護について学び、その技術を習得することができる
基礎看護技術 Ⅴ-①	1	30	Ⅱ	看護過程の展開の技術を理解することができる
基礎看護技術 Ⅴ-②	1	30	Ⅱ	看護過程の展開の技術を活用し思考過程を整えることができる

実習科目	単位	時期	時間	目 標
基礎看護学実習 Ⅰ-①	1	Ⅰ	15時間 (2日間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 療養生活を送る対象者を知ることができる 2. 看護の場面を通して看護師の役割を学ぶことができる 3. 看護師を目指す者としての自己の現状と課題を自覚することができる
基礎看護学実習 Ⅰ-②		Ⅱ	30時間 (1週間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象とのコミュニケーションを図り、自己理解を深めることができる 2. 対象の身体的・精神的・社会的側面から対象の全体像を理解することができる 3. 日常生活の援助を計画・実施し、対象に応じて修正する必要性を学ぶことができる
基礎看護学実習 Ⅱ	2	Ⅳ	90時間 (3週間)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の看護過程を展開できる 2. 基本的な基礎看護技術を実施し、評価・修正することができる 3. ケアチームにおける看護の役割を理解し、継続看護や他職種との連携の必要性を学ぶことができる

看護学概論

開講時期	I	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	看護の意義と歴史の変遷を知り、看護の概念を学ぶ				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	医療・看護に関わる動向について 日頃から関心をもつこと グループワーク・発表があるとき には資料作成と発表会準備が必要	テキスト	看護学概論（医学書院）看護者の基本的責務 ナイチンゲール『看護覚え書き』 ヘンダーソン『看護の基本となるもの』 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	看護とは 1. 看護とは何かについて理解する 2. 看護の本質について理解する	1. 看護の本質 1) 看護学を学びはじめるにあたって 2) 看護の変遷 3) 看護の定義 資料1 主要な看護理論家の看護概念 資料2 戦後における看護の変遷 資料4 看護にかかわる定義および綱領 2. 看護の役割と機能 1) 看護ケアについて 2) 看護実践とその質保証に必要な要件 3) 看護の役割・機能の拡大 3. 看護の継続性と情報共有 1) 入院時の施設間の連携 2) 入院中の情報伝達と共有 3) 医療機関がかわるとき（転院時）の情報伝達 4) 多職種チームとしての情報共有と継続的かわり 5) 在宅療養を可能にする連携と継続的なかかわり	1. 看護の歴史の変遷とさまざまな理論家による看護の定義を学び、看護の本質とはなにかについて述べるができる 2. 看護行為の本質とケアのさまざまな概念と看護におけるケアとはなにかを述べるができる 3. 看護実践に必要な要素・看護実践の質の保証に必要な要件を述べるができる 4. 看護と多職種の連携と実際の重要性を述べるができる	講義
3 4	4	看護の対象の理解 1. 看護の対象である人間の「こころ」と「からだ」について理解する	1. 人間の「こころ」と「からだ」 1) 対象理解の基盤となる人体の構造と機能・病態生理 2) 看護の使命と結びつくホメオスタシス 3) 「こころ」と「からだ」にかかるストレスの影響 4) 患者心理（病気による「こころ」の変化）の理解 5) 対象者の「こころ」の理解に役だつさまざまな理論 2. 生涯発達しつづける存在としての人間 1) 身体的発育 2) 心理・社会的側面における発達 3. 人間の「暮らし」の理解 1) 生活者としての人間：「生活」の4つの側面 2) 看護の対象としての家族・集団・地域	1. 人間理解の基盤となる看護と関連づけられる生理学・心理学の様々な理論とそれらの理論が看護実践にどう活用されるのかを述べるができる 2. 心理・社会的課題をかかえて成長する存在である人間について述べるができる 3. 生活者である人間に対して、看護の役割と看護の対象について述べるができる	講義
5 6	4	国民の健康・生活の全体像の把握 1. 生活の中の健康を知ることから看護のあり方を理解する 2. 国民のライフサイクルと健康生活について理解する 3. 現代の社会的背景をふまえ、日本人の健康と生活について理解する	1. なぜ国民の健康・生活の全体像の把握が必要か 2. 健康のとらえ方 1) 健康とはなにか 2) 健康でない状態とはどのようなものか 3) 障害とはなにか 4) 生活と健康 5) 健康の実現：ヘルスプロモーション 3. 国民の健康の全体像 1) 国民全体の健康状態 2) 患者の状況 3) 障害者の状況 4) 難病患者の状況 4. 国民のライフサイクルと健康・生活 1) ライフサイクルとは 2) 平均寿命と出生 3) 子どもの健康 4) 就学と社会的自立	1. 健康とはなにか、健康をどのようにとらえるべきかを述べるができる 2. 障害とはなにか障害をどのようにとらえるべきかを述べるができる 3. 健康と障害、生活の関係を述べるができる 4. 主要な公的統計の結果から国民全体の健康と生活と、現代の国民の健康と生活を考えるうえで重要ないくつかの視点を述べるができる	講義

			<ul style="list-style-type: none"> 5) 結婚と出産 6) 仕事と生計 7) 家族 8) 介護 9) 老いと死 5. 現代の日本人の健康と生活を考えるキーワード <ul style="list-style-type: none"> 1) 少子高齢化 2) 健康寿命 3) 人とのつながり 4) 健康の社会的決定要因と健康格差 5) 健康・生活とQOL 		
7	2	<p>看護の提供者</p> <p>1. 職業としての「看護」について理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 職業としての看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 職業としての看護のはじまり（明治期から第二次世界大戦終結までの看護） 2) 職業としての看護の確立（終戦時から昭和中期の看護） 3) 職業としての看護の充実（昭和後期から平成初期の看護） 4) 職業としての看護の発展（現在の看護） 5) 職業としての看護の新たな展開（これからの看護） 2. 看護職の資格と養成にかかわる制度 <ul style="list-style-type: none"> 1) 保健師助産師看護師法 2) 看護基礎教育と養成施設 3) 看護職の養成制度 3. 看護職者の就業状況と継続教育 <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護職者の就業状況 2) 継続教育 3) 専門看護師・認定看護師・認定看護管理者 4) 看護職のキャリア開発 4. 看護職の養成制度の課題 <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護職養成の場としくみに関する課題 2) 「特定行為に係る看護師の研修制度」の開始 3) 看護教員の育成と看護継続教育の保障 <p>資料3 保健・医療・福祉関係者養成制度</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 看護職の成立と発展，現在のかたちになるまでの経緯、看護職（看護師・准看護師・保健師・助産師）の資格と養成制度、看護職者の就業状況と免許取得後の継続教育と、看護職としての「キャリア開発」について述べるができる 	講義
8 9	4	<p>看護における倫理</p> <p>1. 看護における倫理について理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 現代社会と倫理 <ul style="list-style-type: none"> 1) なぜ倫理について学ぶのか 2) 倫理，道徳，法 3) 現代の医療・看護と倫理 4) 職業倫理としての看護倫理 2. 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 <ul style="list-style-type: none"> 1) 患者の権利とインフォームドコンセント 2) 現代医療におけるさまざまな倫理的問題 3) 医療専門職の倫理規定 3. 看護実践における倫理問題への取り組み <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護の本質としての看護倫理 2) 医療をめぐる倫理原則とケアの倫理 3) 看護実践場面での倫理的ジレンマ 4) 倫理的課題に取り組むためのしくみ 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 倫理とは、なぜ倫理を学ぶ必要があるのかを述べるができる 2. 看護をめぐる倫理的問題について、看護師の倫理規定を述べるができる 3. 医療・看護をめぐる倫理原則を理解し、倫理的問題や倫理的ジレンマの解決にどのように取り組むべきかを述べるができる 	講義
10 11 12	6	<p>看護の提供のしくみ</p> <p>1. サービスとは何かをとらえたうえで、サービスとしての看護に理解する</p> <p>2. 医療安全と医療の質保証について理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. サービスとしての看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 「看護とはなにか」の3つの視点 2) 3つの視点の相互関連 2. 看護サービス提供の場 <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護サービスの担い手とチーム医療 2) 看護サービス提供の場 3. 看護をめぐる制度と政策 <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護制度－看護サービスと看護職者にかかわる法制度 2) 看護政策－法をつくり，実行するしくみとその過程 3) 看護サービスと経済のしくみ－診療報酬と人員配置 4) 看護の人員配置基準と看護サービスの評価 4. 看護サービスの管理 <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護サービスの管理とはどのようなことか 2) 看護管理システム 3) 組織 4) リーダーシップとフォロワーシップ 5) 人的資源の管理 5. 医療安全と医療の質保証 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 看護におけるサービスという考え方について述べるができる 2. チーム医療に携わるさまざまな職種と、チームの機能を述べるができる 3. 看護サービスの提供の場とサービスの内容を述べるができる 4. 看護にかかわるさまざまな法制度を述べるができる 5. 看護サービスの管理についてその対象や組織・リーダーシップの概要とともに述べるができる 6. 医療事故がおこる過程と防止するための対策について 	講義

			<ul style="list-style-type: none"> 1) 医療事故の増加 2) 医療事故の要因と医療の質の向上 3) ヒューマンエラーと医療事故 4) 看護業務の特性と医療事故 5) 医療事故防止対策としてのインシデントレポートの活用 6) 医療安全における医療者と患者の協働の必要性 	述べることができる	
13 14	4	<p>国広がる看護の活動領域際化と看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 国際化と看護について理解する 2. 災害時における看護について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 国際化と看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 国際看護学とはなにか 2) 開発途上国の定義 3) 健康と保健医療の世界的課題 4) 国際協力のしくみ 5) 国際保健の基本理念 6) 国際看護活動の展開 7) 日本に在留する外国人の看護 8) 異文化理解 2. 災害時における看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 災害看護の概念と構造 2) 災害と健康 3) 災害サイクルにそった看護活動 4) 心理的回復の過程 5) パンデミックへの対応 6) 災害への備えとそのシステム 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 国際看護学のこれまでの流れ、国際協力にはどのような組織・しくみ、国際保健の基本理念を把握し、国際看護活動の展開と日本に在留する外国人への看護の実際を述べることができる 2. 災害看護の特徴、災害サイクルにそった看護活動、どのような備えが必要であるか述べることができる 	講義
15	2	単位認定終講試験			

看護管理概論

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験	有		
科目目標	1. 看護管理とは何かを概観できる 2. 看護職に必要な管理の知識を習得する 3. 医療組織人としての基盤となる考え方を形成することができる				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	教科書を中心として講義後は必ず復習をして理解に努めること	テキスト	看護管理（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	看護とマネジメント 1. 看護とマネジメントについて学ぶ	1. 看護管理学とは 1) 看護管理の定義 2) 看護管理学の概念構成 3) 看護管理学の基本的要素 4) 看護のマネジメントが行われる場 2. 看護におけるマネジメント 1) 看護マネジメントの考え方の変遷 2) 看護におけるマネジメントの考え方の変遷 3) これからの看護職に求められるマネジメント	1. 管理における各種定義を述べることができる 2. 看護におけるマネジメントの考え方を述べることができる	講義
2 3 4	6	看護ケアのマネジメント 1. 看護ケアのマネジメントと看護職の機能について学ぶ 2. チーム医療における看護の果たすべき役割を学ぶ	看護ケアのマネジメント 1. 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2. 患者の権利の尊重 1) 患者の権利 2) インフォームドコンセント 3) 意思決定の支援 3. 安全管理 1) 安全管理のしくみ 2) 医療安全対策 3) 院内感染対策 4) 災害の予防と対応 4. チーム医療 1) チーム医療とは 2) チーム医療に必要な機能 3) 看護職の責任と役割 4) 多職種との連携・協働 5. 看護業務の実践 1) 看護業務 2) 看護基準と看護手順 3) クリティカルパス 4) 情報の活用 5) 日常業務のマネジメント 6) EBN/EBM/EBP・研究成果の活用	1. 看護ケアにおけるマネジメントのプロセスを述べることができる 2. チーム医療の基本的な考え方を述べることができる	講義
5	2	看護職のキャリアマネジメント 1. 看護師のキャリアとキャリア形成について必要な能力を学ぶ	1. キャリアとキャリア形成 2. 看護職のキャリア形成 3. 看護職の技能修得段階 1) 新人看護職員の臨床実践能力の向上 2) キャリアラダー 4. 看護専門職としての成長（社会化） 5. タイムマネジメント 6. ストレスマネジメント 1) ストレス 2) 個人のストレスマネジメント	1. 看護師のキャリアとキャリア形成について必要な基礎的知識を述べることができる	講義
6 7 8	6	看護サービスのマネジメント 1. 組織として看護サービスをマネジメントする考え方を学ぶ	1. 看護サービスのマネジメント 1) サービスとは 2) 看護サービスのマネジメントの対象と範囲 2. 組織目的達成のマネジメント 1) 理念の形成と浸透 2) 現状分析・情報収集 3) 看護の組織化 3. 看護サービス提供の仕組みづくり	1. 組織として看護サービスをマネジメントするために必要な考え方について身近なケースに置き換えて述べることができる	講義

			1) 看護単位の機能と特徴 2) 看護ケア提供システム		
9	2	看護を取り巻く諸制度 1. 看護を取り巻く諸制度について理解する	1. 看護の定義 2. 看護職 1) 看護職の定義 2) 看護職と専門職性 3) 看護職と法・制度 4) 看護職の法的責任 5) 看護職の職業倫理 6) 看護職の教育制度 7) より専門性の高い看護職の養成および認定制度 8) 就業場所別就業者数 3. 医療制度 1) 医療法 2) 医療保険・介護保険に関する法制度 3) その他の関係法規 4. 看護政策と制度 1) 看護行政の組織 2) 政策過程	1. 看護を取り巻く諸制度について述べることができる	講義
10	2	マネジメントに必要な知識と技術 1. マネジメントに必要な知識と技術について学ぶ	1. マネジメントとは 1) マネジメントプロセス 2) マネジメントサイクル 2. 組織とマネジメント 1) 組織構造と組織原則 2) 組織とマネジメントの基本 3. リーダーシップとマネジメント 1) リーダーシップの定義	1. マネジメントに必要な知識と技術について、専門用語を用いて説明することができる	講義
11 12 13 14	8	チームビルディンググループワーク 1. 単なる「集団」から、「効果的で効率的なチーム」に作り上げる ことプロセスを学ぶ	1. チームビルディング 1) 「チームビルディング」のプロセス (1) 個人の集まり…个人中心、個人の目標重視 (2) グループ…リーダー中心の活動、グループ目標を持つ (3) チーム…目的中心の活動、行動や意思決定が目的に合わせて実施できる、相互依存の関係…「良いチーム」の条件 (4) チームメンバーそれぞれがチームの一員であることを実感できる。 (5) お互いを信頼でき、チームとしての行動ができる (6) プロジェクト全体の目的に沿った行動ができる (7) 活発で有意義なコミュニケーションがある	1. 目的をもつチームを形成する 2. チームのめざすものを掲げる 3. チーム内での役割を明確にする 4. 役割内容を明確にする 5. チームパフォーマンスの成果を振り返る 6. 「チームビルディング」のグループ発表、全体ディスカッション	講義 演習
15	2	単位認定終講試験			

看護研究

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	非常勤講師	実務経験	有		
科目目標	1. 看護学における看護研究の意義目的とその方法が理解できる 2. 研究的視点と論理的思考を持ち備えて看護の実践評価ができる				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	医療・看護に関わる動向について 日頃から関心をもつこと グループワーク・発表があるとき には資料作成と発表会準備が必要	テキスト	看護研究（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	看護研究とは 1. 看護研究概要を理解することができる	1. 看護における研究の意味 2. 看護研究とは何か 3. なぜ看護を学ぶのか 4. 看護研究の歴史 5. 看護研究への期待	1. 看護研究とは何か、その役割と特徴となぜ看護研究を学ぶ必要があるのか看護研究がどのように発展してきたかを述べることができる 2. 最良のケアを実践するための方法、および科学的根拠（エビデンス）に基づいた実践という考え方の基本を述べる 3. 健康問題に対応するために看護研究の推進がなぜ不可欠かを述べるができる	講義
2	2	看護研究のはじめ方 1. 研究の進め方の実際について理解することができる	1. リサーチクエストとは 2. リサーチクエスト決定までのプロセス	1. 研究におけるリサーチクエストの重要性、疑問をリサーチクエストにするプロセス、リサーチクエストを精練する方法を述べるができる	講義
3	2	情報の探索と吟味 1. 文献レビューとその方法について理解することができる	1. 情報と科学的な根拠 2. 文献とその種類 3. 文献レビューとその目的 4. 文献検索の方法 5. 文献の入手と整理 6. 文献の読み方 7. 文献レビューの記述	1. 看護ケアの根拠とすべき情報とは何かを理解する 2. 文献の種類と読むべき優先順位、文献レビューとその目的、文献検索データベースを使った文献検索の方法を述べるができる 3. 文献検索を行い、文献クリティークの方法、文献検討の記述方法を述べるができる。	講義
4	2	研究における倫理的配慮 1. 研究における倫理的配慮の具体的方法について理解することができる	1. 研究における倫理的配慮の原則 2. 依頼書と同意書の書き方 3. 特別な配慮が必要な場合の対応 4. 依頼書同意書の例	1. 看護研究においてどのような倫理的行動が必要か、看護研究において遵守すべき4つの倫理原則とそれに応じた擁護すべき権利を述べるができる 2. 倫理原則にそった依頼書の書き方と同意のとり方と依頼と同意に際して特別な配慮が必要な場合の対応を述べるができる	講義
5	2	研究デザイン 1. 研究の設計と選択方法について理解することができる	1. 看護における研究デザインの多様性 2. 研究デザインの選択 3. 研究デザインの整理 4. 量的研究デザイン 5. ミックスドメソッド 6. 尺度開発	1. なぜ、看護学においては多様な研究デザインが必要かを述べるができる 2. リサーチクエストのレベルに適した研究デザインとそれぞれの研究デザインの概要を述べるができる	講義
6	2	データの収集とデータの分析 1. 研究デザインに応じたデータ分析の方法について理解することができる	1. データとは 2. 標本の選択－誰からデータを集めるか 3. データ収集法インタビューデータの収集 4. アンケートデータの収集 5. 開発された尺度の活用 6. 観察データの収集 7. 生理学的測定データ、その他のデータの収集 8. 質的データ分析・量的データ分析	1. 研究対象と集めるべきデータの選定、およびデータの収集方法、標本の選択の考え方と方法を述べるができる 2. 質的データ分析の特徴と量的データ分析の手順を述べるができる 3. 適切な研究対象を選び、データの収集方法、適切なデータを適切な方法で、データの入力・整理方法の基本、集めたデータの特徴のつかみ方（分布、代表値の把握）を身につける。 4. 統計学的仮説検定とは何かを理解し、変数の関連についての初歩的な検定方法を述べるができる	講義
7	2	研究計画書の作成 1. 研究計画書の作成の具体的方法について理解すること	1. 研究計画書とは 2. 研究計画書の書式と書き方 3. 研究計画書の例	1. 研究計画書を作成する意義と目的、研究計画書の書式と記載内容を述べるができる 2. 自分の研究について研究計画書を作成できる	講義

		ができる			
8	2	研究を伝える 1. 学会発表・論文作成などの発表の成果について理解することができる	1. 研究成果をまとめる 2. 研究成果を伝える	1. 研究成果の公表方法、研究成果を論文にまとめて投稿する意義、論文の構成と書き方、研究成果をまとめる方法を述べるができる	講義 演習
9	2	ケースレポート・事例研究・ 調査研究・文献研究・ 実践報告の進め方 1. 種々の研究方法について理解することができる	1. ケースレポートとは 2. 事例研究とは 3. 実態調査研究の進め方 4. 相関研究の進め方 5. 文献研究 6. 実践報告	1. ケースレポートと事例研究の違いを理解し、ケースレポートと事例研究の目的と意義、方法を述べるができる 2. 研究の一手法である事例介入研究と実態調査研究また、相関研究の意義・方法を述べるができる	講義
10 11 12 13 14 15	12	看護研究発表 1. テーマに沿った研究成果を発表し研究的視点で学びを深めることができる	1. 看護研究計画書作成 2. 文献検索 3. 論文作成 4. 看護研究プレゼンテーション	1. 文献研究・実践報告の意義を理解し、文献検討し、研究の進め方を理解した上で研究計画書を作成できる。 2. 看護実践の質向上に役立つ実践報告のかたちと進め方を述べるができる	講義 演習

基礎看護技術 I

開講時期	I	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	1. 看護技術を看護実践の中で活用することの意味と、看護実践の基盤となる考え方について学ぶ 2. 感染防止の基礎知識を理解し、施設内で発生する院内感染を防止するための技術を習得する 3. 人間にとっての環境の意味を理解し、生活環境を整えるための知識と援助方法を習得する 4. 活動・休息の意味を理解し、基本的活動と睡眠の基礎知識と必要な援助方法を習得する 5. 苦痛の緩和や精神的安寧を目的とする看護行為について理解することができる				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	事前に配布された課題を行うこと。	テキスト	基礎看護技術 I 基礎看護技術 II（医学書院） ナイチンゲール『看護覚え書』 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	看護技術を学ぶにあたって 1. 看護技術とは何かを理解する 2. 看護技術の範囲を理解する 3. 看護基本技術を支える態度や行為の構成要素を理解する	1. 技術とはなにか 1) 行為を可能にする原理 2) 技術的用途倫理的側面 2. 看護技術の特徴 1) 全人的なかかわりが求められる 2) 人間関係を基盤とする 3) 状況変化への対応が求められる 4) 対象者の権利擁護が求められる 5) 倫理的判断が求められる 3. 看護技術の範囲 4. 看護技術を適切に実践するための要素 1) 看護技術の目的を把握する 2) 正確な方法を熟知する 3) 看護技術の根拠を考える 4) 対象者への適用意義と個別性を考慮する 5) インフォームドコンセント 6) 安全・安楽を確保する 7) プライバシーを保護する 8) 対象者の状態や反応を確認しながら実施する 9) 実施後の客観的評価と主観的評価 5. 看護技術の発展と修得のために 1) 技能と技術 2) 技能から技術へ	1. 看護技術とは何かを述べる ことができる 2. 看護技術の範囲を述べる ことができる 3. 看護基本技術を支える態度や更衣の構成要素の考え方を参考に、さまざまな看護技術を実施する際に共通して含まれるべき要素について考えることができる	講義
3	2	感染防止の技術 1. 感染成立の条件および院内感染防止の基本を理解する 2. 標準予防策を学び、正しい方法を理解する 3. 感染経路別予防策を学び、適切な方法を理解する	1. 感染防止の基礎知識 1) 感染成立の条件 2) 院内感染の防止 2. 標準予防策（スタンダードプリコーション） 1) 標準予防策の基礎知識 3. 感染経路別予防策 1) 感染経路別予防策の基礎知識 2) 接触予防策 3) 飛沫予防策 4) 空気予防策	1. 感染の成立条件について述べる ことができる 2. 院内感染の防止のために必要なことは何かを述べる ことができる 3. 感染経路別の予防策とそれぞれの対策について述べる ことができる	講義

4	2	<p>感染防止の技術</p> <p>1. 医療機器の管理および環境整備の意義や重要性を理解する</p> <p>2. 洗浄・消毒・滅菌の実際、感染性廃棄物の取り扱いについて理解する</p> <p>3. 無菌操作について学び、正しい方法を理解する</p> <p>4. 標準予防策を正しく実践する</p>	<p>1. 洗浄・消毒・滅菌</p> <p>1) 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識</p> <p>2) 洗浄</p> <p>3) 消毒と滅菌</p> <p>2. 無菌操作</p> <p>1) 無菌操作の基礎知識</p> <p>2) 対策の実際</p> <p>3. 感染性廃棄物の取り扱い</p> <p>1) 感染性廃棄物の基礎知識</p> <p>2) 対策の実際</p> <p>4. 標準予防策の実際</p> <p>1) アルコール手指消毒</p> <p>2) マスク装着演習</p> <p>3) グローブ装着演習</p>	<p>1. 洗浄・消毒・滅菌の違い、それぞれの方法について述べることができる</p> <p>2. 無菌操作の際に注意すべきことを述べることができる</p> <p>3. 感染性廃棄物の廃棄方法について述べるができる</p> <p>4. アルコール手指消毒の手順書の作成</p> <p>5. マスク装着の手順書作成</p> <p>6. グローブ装着の手順書作成</p>	講義
5 6	4	<p>感染防止の技術</p> <p>1. 感染防止のための技術を習得することができる</p>	<p>1. 衛生的な手洗いの演習</p> <p>2. 個人防護用具装着演習</p> <p>1) マスク着用</p> <p>2) 不潔ガウン</p> <p>3) グローブ装着</p> <p>3. 個人防護用具装着の演習</p> <p>1) 滅菌ガウン</p> <p>2) 滅菌手袋</p> <p>4. 無菌操作演習</p> <p>1) 滅菌バック</p>	<p>1. 標準予防策に基づいた防護用具の着脱の方法を習得することができる</p> <p>2. 滅菌物の取り扱い手順を習得することができる</p> <p>3. 衛生的な手洗いの手順書作成</p> <p>4. 個人防護用具装着手順書作成</p> <p>5. 滅菌ガウン着用手順書作成</p> <p>6. 滅菌手袋装着手順書作成</p>	演習
7	2	<p>環境調整の技術</p> <p>1. 療養生活の環境を構成する要素を理解し病室・病床の環境のアセスメントと調整を理解する</p>	<p>1. 援助の基礎知識</p> <p>1) 療養生活の環境</p> <p>2) 病室の環境のアセスメントと調整</p>	<p>1. 病室の環境を快適なものにするために調整すべき要素を述べるができる</p> <p>2. ベッド周囲の環境整備のポイントを述べることができる</p>	講義
8 9	4	<p>環境調整の技術</p> <p>1. 生活環境を整えるための技術を習得する</p>	<p>1. 援助の実際</p> <p>1) ベッド周囲の環境整備</p> <p>2) 病床を整える</p>	<p>1. ベッド周囲の環境整備を実践することができる</p> <p>2. ベッドメイキングのポイントを理解し、実践することができる</p> <p>3. ベッドメイキング手順書作成</p> <p>4. リネン交換手順書作成</p>	講義
10	2	<p>活動の看護技術</p> <p>1. 姿勢の基礎知識・ボディメカニクスの原理を理解する</p> <p>2. 体位とその目的を理解する</p> <p>3. 移乗の援助と移送の方法を習得する</p>	<p>1. 基本的活動の援助</p> <p>1) よい姿勢とは</p> <p>2) 日常生活動作</p> <p>3) ボディメカニクス</p> <p>4) 体位変換</p> <p>5) 移動</p> <p>6) 移乗・移送</p> <p>2. 体位保持</p> <p>1) 様々なポジショニング</p>	<p>1. 基本的活動の基礎知識について述べるができる</p> <p>2. 体位変換・移乗・移送動作の援助方法を述べるができる</p>	講義
11 12	4	<p>活動の看護技術</p> <p>1. 体位変換とボディメカニクスの技術を習得する</p> <p>2. 移乗と移送の技術を習得する</p>	<p>1. 基本的活動の援助</p> <p>1) ボディメカニクスを活用した体位変換の演習</p> <p>2) ストレッチャー・スライディングシートを使用した移動の演習</p> <p>3) 車椅子での移乗・移送</p> <p>2. 体位保持</p> <p>1) 様々なポジショニングの演習</p>	<p>1. ボディメカニクスを活用した体位変換の技術を習得できる</p> <p>2. 移動・移送に使用される物品の安全で正確に使用することができる</p>	演習
13	2	<p>睡眠・休息の援助技術</p> <p>1. 睡眠と睡眠障害について理解する</p> <p>2. 睡眠・休息の</p>	<p>1. 睡眠・休息の基礎</p> <p>1) 睡眠の種類</p> <p>2) 睡眠制御のメカニズム</p> <p>3) 睡眠障害のアセスメント</p> <p>2. 睡眠・休息の援助の実際</p>	<p>1. 睡眠・休息の基礎知識について述べるができる</p> <p>2. 睡眠・休息の援助について述べるができる</p>	講義

		具体的な援助 を理解する			
14	2	看護技術の確認 1. 生活環境を整 える技術、感 染防止の技術 が実施できる	1. 生活環境を整える技術 2. 感染防止の技術	1. 生活環境を整える技術およ び感染防止の技術が実施で きる	演習
15	2	単位認定終講試験			

基礎看護技術Ⅱ

開講時期	I	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	1. ヘルスアセスメントの意味を理解し、必要とされる技術を習得することができる 2. 生体におけるバイタルサインの意味を理解し、その測定方法について習得することができる 3. 呼吸・循環の生理学的メカニズムを理解し、呼吸・循環を整える技術を習得することができる 4. 電法の種類と電法が身体に及ぼす影響を理解し、温電法・冷電法の実践が習得できる 5. 苦痛の緩和や精神的安寧を目的とする看護行為について理解することができる				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	演習前には事前の自己学習、動画などでの技術確認、手順書作成など準備が必要 技術確認のある技術は自己練習が必要	テキスト	基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 (医学書院) 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	2	ヘルスアセスメント 1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解する	1. ヘルスアセスメントとは 2. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント 1) 問診の技術 2) 健康歴聴取の目的と実際 3) セルフケア能力のアセスメント 3. 全体の概観 1) フィジカルアセスメントに必要な技術 2) 全身状態・全体印象の把握	1. ヘルスアセスメントの目的について述べるができる 2. フィジカルイグザミネーションの基本的技術を実施することができる	講義
3 4 5 6 7	10	バイタルサイン観察の技術 1. 呼吸・循環・体温観察の意義・目的を理解し、正確に測定する技術を習得する 2. 測定値の変動をきたす因子を理解する 3. 測定値を正確かつ有効に評価・活用するための基準値や指標について理解する	1. バイタルサインとは 2. バイタルサインの観察 1) 技術の目的 2) 呼吸・体温・脈拍・血圧調節のメカニズムと影響因子 3. 技術の実際・技術のポイント 1) 脈拍 ・・・・☆ 2) 呼吸 ・・・・☆ 3) 体温 ・・・・☆ 4) 血圧 ・・・・☆ 5) 意識レベル	1. バイタルサインを正確に測定する方法について述べるができる 2. バイタルサインを正確に測定することができる	講義 演習
8 9 10 11 12 13 14	14	呼吸・循環を整える技術 苦痛の緩和・安楽確保の技術 1. 安全に酸素吸入を行う技術を習得する 2. 効果的な排痰方法を理解する 3. 安全に吸引を行う技術を習得する 4. 正確な吸入方法を理解する 5. 人工呼吸器装着時の援助の手順、患者の観察点を知る 6. 体温管理の援助技術を理解する	1. 酸素吸入療法 1) 酸素療法とは 2) 酸素療法の適応 3) 酸素吸入に使われる器具の特徴 4) 酸素療法の副作用 5) 酸素ポンベの取り扱い ・・・・● 2. 排痰ケア 1) 体位ドレナージ 2) 咳嗽介助、ハフィング 3) 一時的吸引（口腔・鼻腔・気管） ・・・・● 3. 持続的吸引（胸腔ドレナージ） ・・・・△ 4. 吸入 ・・・・● 5. 人工呼吸療法 6. 体温管理の技術 1) 発熱時の援助 2) うつ熱時の援助（熱中症の場合） 3) 低体温療法 7. 電法 1) 電法の意義	1. 呼吸を整える援助方法について述べるができる 2. 循環を整える援助方法について述べるができる 3. 安楽促進・苦痛の緩和（冷電法・温電法）の援助技術を実施できる	講義 演習

		<p>7. 安楽促進・苦痛の緩和の技術を理解することができる</p> <p>8. 末梢循環促進ケアの目的と方法を理解する</p>	<p>2) 電法の効果と適応</p> <p>3) 温電法・冷電法 ……●</p> <p>(1) 生理学的効果、安楽を期待する場合</p> <p>(2) 援助方法</p> <p>8. 末梢循環促進ケア</p>		
15	2	単位認定終講試験			

●：演習、△：デモ、☆：技術確認

基礎看護技術Ⅲ

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	1. 身体各部の形態や、身体機能を正しく計測し評価することを習得することができる 2. フィジカルアセスメントの概念、フィジカルアセスメント技術とそれによって得られる客観的データについて理解することができる 3. 生体におけるバイタルサインの意味を理解し、フィジカルアセスメントに活用することができる				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	事前に配布された課題に取り組むこと 身体に興味を持ち、実際のケアに結び付けていくこと	テキスト	基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	スクリーニングの技術 1. 身体各部の計測の目的・意義を理解する 2. 測定値の変動をきたす因子を理解する 3. 正確な測定値を得るための測定技術を習得する 4. 測定値を正確かつ有効に評価・活用するための基準値や指標について理解する	1. フィジカルアセスメントとは 1) フィジカルアセスメントに必要な技術 2. 身体計測 1) 身長計測・・・・・・☆ 2) 体重計測・・・・・・☆ 3) 腹囲計測・・・・・・☆	1. スクリーニング技術の目的・ポイントを述べることができる 2. 身体計測を正しい技術で実施することができる	講義
2 3 4 5 6 7 8 9	16	系統別フィジカルアセスメント 1. 系統別フィジカルアセスメントについてその方法と主な正常所見、異常所見について理解する	系統別解剖学的理解とアセスメント・・・・・・☆ 1. 呼吸器のフィジカルアセスメント 1) 呼吸器のフィジカルアセスメントの目的 2) 呼吸器系の基礎知識 3) 呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際 2. 循環器系のフィジカルアセスメント 1) 循環器系のフィジカルアセスメントの目的 2) 循環器系の基礎知識 3) 循環器系のフィジカルアセスメントの実際 3. 乳房・腋窩・腹部のフィジカルアセスメント 1) 乳房・腋窩・腹部のフィジカルアセスメントの目的 2) 乳房・腋窩・腹部の基礎知識 3) 乳房・腋窩・腹部のフィジカルアセスメントの実際 4. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 1) 筋・骨格系のフィジカルアセスメントの目的 2) 筋・骨格系の基礎知識 3) 筋・骨格系のフィジカルアセスメントの実際 5. 神経系のフィジカルアセスメント 1) 神経系のフィジカルアセスメントの目的 2) 神経系の基礎知識 3) 神経系のフィジカルアセスメントの実際 6. 頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメント 1) 頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメントの目的 2) 頭頸部と感覚器の基礎知識 3) 頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメントの実際	1. フィジカルイグザミネーションの方法について述べる ことができる 2. フィジカルイグザミネーションの結果からアセスメントすることができる	講義 演習

10 11 12 13	8	事例で学ぶフィジカルアセスメント 1. フィジカルアセスメント技術とそれによって得られる客観的データを理解する 2. 観察事項の意味を理解する	1. 事例で学ぶフィジカルアセスメント 1) 問診：自覚症状の確認と経過 2) 全身の外観とフィジカルイグザミネーション 3) 得られた情報からわかること 4) アセスメント後の経過 (1) 循環器系事例 (2) 呼吸器系事例 (3) 腹部の事例 (4) 食事の事例	1. 正確な技術を実施でき、得た情報から状態の正常・異常が判断できる 2. 正常・異常の判断をした根拠を述べることができる	講義
14	2	看護技術の確認 1. フィジカルアセスメントの技術	対象にフィジカルアセスメントの技術が実施できる	1. フィジカルアセスメントの技術を実施し、状態をアセスメントできる	演習
15	2	単位認定終講試験			

●演習 △デモ ☆技術確認

13			2. 導尿 1) 一時的導尿 2) 持続的導尿・・・・・・・・● 3. 排便を促す援助 1) 排便を促す援助の基礎知識 2) 浣腸・・・・・・・・● 3) 摘便 4. ストーマケア 1) 排泄援助としてのストーマケアの基礎知識	1. 導尿の目的や方法について述べる ことができる 2. 排便を促す援助の目的や方法につ いて述べるることができる	演習 デモ
14	2	死亡時の看護技術 1. 死亡時の看護 技術を理解す る	1. 死の看取りの基礎知識 1) 死の看取りの援助とその基本 2) 死の看取りと悲嘆ケア 3) 臨終のケア 2. 死後のケア・・・・・・・・△	1. 死の看取りの基礎知識を述べるこ とができる 2. 死亡時の看護のあり方を述べるこ とができる	講義 デモ
15		単位認定終講試験			

表記の注意：●演習 △デモ

基礎看護技術Ⅳ－②

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	検査・治療・処置における看護について学び、その技術を習得することができる				
評価方法	筆記試験 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	人体の構造と機能、基本的な病態 生理や診断を理解できるよう、事前学習を行う 演習前の動画での技術確認、手順書作成	テキスト	臨床検査 薬理学 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 （医学書院）		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	症状・生体機能管理技術 1. それぞれの検査の方法と検査時の看護について理解する	1. 症状・生体機能管理技術の基礎知識 2. 検体検査 1) 血液検査 2) 尿検査 3) 便検査 4) 喀痰検査 3. 生体情報モニタリング	1. 検査の介助に関する基礎知識を述べる事ができる	講義
2 3	4	症状・生体機能管理技術 1. 採血に必要な知識を獲得し、看護の実際を理解する	1. 血液検査 1) 注射器を用いた静脈血の採血・・・・・・・・● 2) 真空採血管を用いた静脈血の採血 3) 血糖測定・・・・・・・・●	1. エビデンスに基づいた採血方法を理解し述べる事ができる 2. 血糖測定の正しい方法を述べる事ができる	講義 演習
4	2	創傷管理技術 1. 創傷とその治療のメカニズムを知り、処置と看護について理解する 2. 褥瘡発生機序とアセスメント方法を理解し予防の援助について理解する	1. 創傷管理の基礎知識 1) 創傷と治癒 2) 創傷治療のための環境づくり 2. 創傷処置 3. 褥瘡予防 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際	1. 創傷管理の基礎知識を述べる事ができる 2. 褥瘡予防の基礎知識・援助方法について述べる事ができる	講義
5	2	診察・検査・処置の介助技術 1. 診察・検査・処置時の看護・援助方法について理解する	1. 診察の介助 2. 検査・処置の介助	1. 診察・検査・処置の概要と介助について述べる事ができる	講義
6 7 8 9 10 11 12 13	16	与薬の技術 1. 与薬の基礎知識を理解し、援助の実際を理解する	1. 与薬の基礎知識 2. 与薬における事故防止の実際 1) 誤薬防止 2) 患者誤認防止 3) 針刺し防止策 3. 与薬の実際 1) 経口与薬・口腔内与薬 2) 吸入 3) 点眼 4) 点鼻 5) 経皮的与薬 6) 直腸内与薬 7) 注射 (1) 注射の基礎知識 (2) 注射の実施方法 ①皮下注射・・・・・・・・● ②皮内注射・・・・・・・・△ ③筋肉内注・・・・・・・・●	1. 与薬の基礎知識を述べる事ができる 2. 与薬における事故防止の重要性について述べる事ができる 3. 与薬における看護師の役割が述べられる 4. 注射の基礎知識を述べられる 5. エビデンスに基づいた静脈内点滴が実施できる 6. 輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱いを理解し述べる事ができる 7. 輸血管理に必要な基礎知識を述べる事ができる	講義 演習

			④静脈内注射（ワンショット）・・・・・・・・△ ⑤点滴静脈内注射・・・・・・・・☆ 8) 輸液ポンプ・シリンジポンプを用いた輸液・・● 9) 輸血管理・・・・・・・・△		
14	2	看護技術の確認 1. 翼状針を用いた点滴静脈内注射の技術を習得することができる	1. エビデンスに基づいた点滴静脈注射の技術を習得する	1. エビデンスに基づき、安全かつ患者の安楽に配慮した点滴静脈内注射技術が実施できる	演習
15	2	単位認定試験			

表記の注意：●演習 △デモ ☆技術確認あり

基礎看護技術V-①

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験	病院勤務経験有		
科目目標	看護過程の展開の技術を理解することができる				
評価方法	筆記試験100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習法 (予習・復習・課題)	授業中に配布するプリント、テキストは必ず復習で見直すこと 段階的に知識を統合するための個人ワーク、グループワークへの主体的な取り組み	テキスト	基礎看護技術Ⅰ NANDA-I看護診断：定義と診断 成人看護学（医学書院）		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	看護実践における看護過程 1. 看護過程を構成する要素とそのプロセスを理解する 2. 看護過程を用いることの意義を理解する	1. 看護過程とは 2. 看護過程の5つの構成要素 3. 構成要素間の関連 4. 看護過程で実践することの意義	1. 看護過程を構成する要素を述べる 2. 看護過程を用いる意義を述べる	講義
2 3	4	看護過程展開の基盤となる考え方 1. 問題解決過程を理解する 2. クリティカルシンキングと看護過程の関係を理解する 3. 看護過程の展開における倫理的側面を理解する 4. 看護過程の中でリフレクションとの関係を理解する	1. 問題解決過程 2. クリティカルシンキング 3. 倫理的配慮と価値判断 4. リフレクション	1. 問題解決過程に必要な力を述べる 2. クリティカルな思考の要素を述べる 3. 看護過程の倫理的側面を述べる 4. 看護過程の中でリフレクションとの関係を述べる	講義
4 5 6 7 8 9 10	14	看護過程の各段階 1. アセスメントの基本的な考えと実践方法を理解する 2. 看護問題と看護診断の基本的な考えと実践方法を理解する 3. 看護計画の立案方法を理解する 4. 実施の流れと評価の方法を理解する	1. アセスメント（情報の収集と分析） 1) 情報収集とは 2) 情報収集の方法 3) 情報の分析方法 4) 全体像の把握 2. 看護問題の明確化（看護診断） 1) 看護問題の見極め 2) 看護診断とは 3) NANDA I・看護診断分類法Ⅱ領域と類 4) NIC・NOC 5) 看護問題の種類 6) 看護診断の表記方法 7) 看護問題の優先順位 8) 共同問題 3. 期待される成果の明確化 1) 期待される成果の表記 2) 共同問題と期待される成果 4. 看護計画の立案 1) 看護計画立案の原則 2) 看護計画の表記 5. 実施 1) 実施の基本 6. 評価 1) 評価を行う意義 2) 評価を行う時期と方法	1. 情報の収集・分析内容とその方法を述べる 2. 看護問題の明確化と優先順位の決定するための判断内容を述べる 3. 看護診断、共同問題の考え方を述べる 4. 看護診断分類法Ⅱ領域と類の解釈ができる 5. 期待される成果の意味と表記方法を述べる 6. 目標達成のための介入方法を述べる 7. 評価の意義・時期・方法を述べる	講義

1 1	1	<p>看護記録</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護記録の法的位置づけ、目的と機能を理解する 2. 記録管理と情報開示、守秘義務とセキュリティの確保について理解できる 3. 看護記録の構成を理解できる 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護記録とは 2. 記載・管理における留意点 3. 看護記録の構成 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護記録の法的位置づけ、目的・留意点を述べることができる 2. 記録管理と情報開示、守秘義務とセキュリティの確保について理解し述べることができる 3. 看護記録の構成を理解して述べるができる 	講義
1 2 1 3 1 4	6	<p>看護過程の活用</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事例を用いて看護過程の展開方法を理解する 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例を用いた看護過程の展開 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例を用いて看護過程の展開を理解してワークを進めることができる 	講義
1 5	2	単位認定終講試験			

基礎看護技術V-②

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験	病院勤務経験有		
科目目標	看護過程の展開技術を活用し、思考過程を整えることができる				
評価方法	レポート課題 100点	評価基準	60点以上で合格		
時間外学習 (予習・復習・課題)	手順を踏んだ看護の道筋について 人体の構造と機能、基本的な病態 生理や診断、治療の知識について 看護過程の展開(V-①)の活用 段階的に知識を統合するための個 人ワーク、グループワークへの主 体的な取り組み	テキスト	解剖生理学 生化学 病理学 微生物学 薬理学 栄養学 成人看護学呼吸器 病態生理学 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 成人看護学総論 NANDA-I看護診断：定義と 診断(医学書院)		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2 3	6	疾患について 1. 疾患の病態生理を理解する	1. 疾患について 1) 解剖生理 2) 病態の理解 3) 病態関連図の作成	1. 解剖生理が理解できる 2. 病態生理が理解できる 3. 病態関連図が作成できる	講義 演習
4 5 6 7	8	一次アセスメント 1. 情報の意味を理解する 2. NANDAの13領域の枠 組みを理解する	1. 一次アセスメント 1) 情報の理解 2) 情報のクラスタリング (1) 事例から気になる情報を抽出する (2) 情報の分類 NANDAの13領域 3) 情報の分析 領域の意味に沿ったアセスメント	1. 情報の意味を理解するこ とができる 2. 情報を分類することがで きる 3. 領域の意味に沿ったアセ スメントができる	講義 演習
8 9	4	全体像 1. 情報の関係性を理解する	1. 全体像 1) 病態関連図と全体像 2) 事象と事象の関連性	1. 全体像を描くことができる	講義 演習
10 11	4	二次アセスメント 1. 看護問題を明確にする	1. 二次アセスメント 1) 問題の統合 2) 診断指標と徴候・症状の照合 3) 関連因子と危険因子	1. 徴候・症状と診断指標を 照合することができる 2. 関連因子、危険因子を 照合することができる	講義 演習
12 13 14	6	看護計画の立案・実施と評価 1. 基本的な看護計画を理解す る 2. 実施、評価の意味を理解す る	1. 看護計画の立案 1) 診断指標・関連因子をふまえた期待する結果 2) 観察計画・ケア計画・教育計画 2. 看護計画の実施と評価	1. 期待する結果を設定する ことができる 2. 期待する結果の到達に 向けた看護計画を立案 できる 3. 実施、評価の記録方法 を理解することができる	講義 演習
15	2	看護過程の展開技術の評価 1. 看護過程評価表に基づき、 記録物の自己評価、他者評 価を行う	1. 一次アセスメント、全体像、二次アセスマン ト、看護計画立案の内容のピュア評価 2. 評価からの看護過程の提出記録物の修正、追加	1. まとめ 2. 看護過程評価表に基づい た単元目標の自己評価と 他者評価ができる	講義 演習